

対馬全域を大学の「対馬学舎」として位置付け、学生や研究者が次々訪問 市議会総務常任委員会が長崎県対馬市を視察

上越市でも取り組まれていいる地域と大学が連携した地域づくりをさらに発展させるためにはどうしたらいいのか。市議会総務常任委員会はその問題意識を持って、域学連携の先進地のひとつである長崎県対馬市を8日、訪問してきました。

ツシマヤマメコについての研究をし、13年前に対馬市に移住したという対馬市しまちづくり推進部の前田剛さんから同市の取り組みの説明をしていただきました。

説明を聴いて認識を新たにしたのは、域学連携は単なる地域づくりの手法ではなく、人口減少などによって衰退の一途をたどる地域、自治体が生き残っていく可能性を高めていく理論と実践であることです。

対馬市全域を大学の「対馬学舎」として位置付けるなかで、年間約500名の学生と約100名の研究者が島にやってきて、「少

子高齢化問題や環境問題などの現状を学び、身近な問題としてとらえるようになった」「地元の住民は対馬の魅力を再確認し、自分や対馬の未来を深く考えられるようになった」などの変化が生まれています。「対馬学フォーラム」も

地元内外から300人も集まるそうです。そしてびっくりしたのは、島へやってきた学生や研究者のなかから何人も有能な人たちが次々と移住していることです。

島の出身でない人が島のために頑張っていくのに地元の若者が立ち上がらないでいいのかと

くつかの発言を記録しておきたいと思えます。

前田さんは「対馬に惹かれた大きな理由の一つは島に住む人たちのやさしさです。なぜやさしいのか。それは島という厳しい環境の中で助け合って暮らしてきたからではないか」とのべました。

これは雪国の山間部で暮らす人のやさしさと共通することだと思えました。いまひとつ、「人口の1%が変わるだけでも、全体が変わっていく」という言葉です。域学連携の取り組みの中で有能な人材が育ち、確保されつつあることの自信の表れだと思えました。

話の中では、(社)中越防災安全推進機構の稲垣文彦さんの「足し算の支援」理論も紹介されました。「まず地域に寄りそい、地域がプ

ラスの状態にならないければ、いくら掛け算をしても良くならない」。勉強になりました。

名立で議会報告会開催

市議会主催の議会報告会・意見交換会が13日、名立区で行われました。私は名立区での議会報告会の参加は初めてでした。市民のみなさんの参加は7人(うち2人は女性)でした。

会の中では、「(国宝の太刀)



【カタバミ】カタバミ科の多年草。漢字で「片喰」と書きます。柿崎区桜町の田んぼの畦で見つけました。葉はハート型で、小さな黄色い花をつけています。繁殖力は強く、駆除が大変な雑草の一つです。



山鳥毛の購入はど

うなっているか」「(上越市)選挙区を5つは広いの

「(上越市)選挙区を5つは広いの

「(上越市)選挙区を5つは広いの

はしづめ法一の活動レポート

No.1833 2017.11.19
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索



きています。対馬市が域学連携を市政の重点に位置づけ、その

の成果を市の諸政策に反映させようとしてい

る点は大いに学ばなければなりません。

前田さんの説明の中で印象に残ったことはい

明の中で印象に残ったことはい

明の中で印象に残ったことはい

明の中で印象に残ったことはい

春よ来い

第四八一回

花嫁行列

晴れて良かったねえ。一月一二日。大島区田麦は祝いの日となりました。昨年、吉川の山間部での研修後、田麦に移り住んできた光則さんと詩歩さんはこの日、地域あげての結婚式をあげたのです。

「昔ながらのやり方で花嫁行列をやるてがすけ、おまん、時間あったら見にこねかね」そう言って私に声をかけてくれたのはヨシコさんです。花嫁行列は午前一〇時に田麦町内会長のケンジさん宅から出るという案内でした。

私が到着したときには、すでに前庭にはジュンコさん、トミコさんなど三、四十人の人が集まっていました。みんな、いまかいまかと待っています。小さな紙コップに入った祝いの酒やゼンマイの煮しめなどが入ったパックがふるまわれていました。

私は竹平町内会長のマサユキさんから「さあさ、入って。花嫁の顔見ていつてくれない」と誘われ、ケンジさん宅の座敷で、詩歩さんの花嫁姿を見ることができました。軽トラを運転しているときの顔も素敵ですが、やはり花嫁衣装を身につけた姿は違います。とてもきれいでした。

居間には田麦町内会長のケンジさんがおられました。「大役ご苦労さんです」と声をかけると、「川谷に来なつたが、こつちに来てもらつて、もうしゃげねがど」との言葉が返ってきました。

ふと、詩歩さんのところへ目を向けると、姉妹だか、親戚の人だから携帯電話が渡され、耳につけています。「たぶん、結婚式に出れない遠くの人からの祝いの言葉が寄せられたのでしょうか。詩歩さんの目が明らかに潤(うる)んでいました。

さて、いよいよ花嫁行列の始まりです。「おはようございます。きょうはみなさん、たいへんどうもありがとうございます

す。これから、じゃ、嫁に出ますんで、よろしく願います」とケンジさんが挨拶しました。挨拶が終わるとすぐに長持唄が始まりました。「はああ、きょうはなあああああ、ひもよおおい……」坂口ハルオさんの声は伸びがあつて素敵です。めでたい唄にびたりでした。

唄の区切りがついたところで「祝いましよう」と言つて小豆が花嫁の列にふりまかれました。と同時に、「詩歩さん、きれいよ」「おめでどう」の声が次々と発せられました。小さな子どもさんの「おめでどう」という声も聞こえてきました。

行列はともゆつくりです。「雨降らんでいかつたね」「ほんとはもうちよつと青空出てもらいかつたがど。でも、こんで充分だこて」という声が聞こえてきました。道ばたにはシソ科のハーブ、アメジストセージが紫と白の花を咲かせていました。小さな花が寄り添つて咲いているように見えることから花言葉は「家族愛」だとか。ふたりの結婚式にびつたりの花です。

花嫁行列が旭郵便局の前を過ぎるあたりで、歌い手はハルオさんからシチロウさんに代わり、光則さんと詩歩さんの住まいである「うしだ屋」の前に着くと、最高潮に盛り上がりました。ハルオさんとシチロウさんが代わり番こに長持唄を唄い、やまざと暮らし応援団のショウキさんなどが「祝いましよう」と、小豆をまきました。

この日の花嫁行列を見に来た人はすごい数でした。百五十人を軽く超えたかも。そして私が「いいなあ」と思ったのは、花嫁、花婿だけでなく、行列を見に来た人たちみんながうれしそうだったことです。そのひとり、一人暮らしのヨミさんは言いました。「嫁さん、きれいでいい顔してなつたし、こんな嫁取りなんて初めてだ」と。

25年目を迎えた東京吉川会に参加

東京吉川会第25回総会が11日、東京は麹町でありました。地元からは通常のメンバーの他に吉川踊り隊の女性陣も参加していただきました。第1部では、平山勇会長がこれま

での25年の歩みを振り返り、「この会はふるさとを同じくする者の心のよりどころになっている。ぜひ引き続きの支援を」と訴えました。また、来春にはふるさとから都内見学のツアーを計画していることを明らかにしました。来賓を代表して土橋均副市長が、「ふるさとへの思いの中で会の運営をされていることに感謝している」と挨拶しました。また、まちづくり吉川の加藤正興副会長が吉川の魅力や動きなどを紹介しつつ、思いを語りました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月7日(火)	11月14日(水)
上越南消防署	0.040	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.047	0.053
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.043	0.040
高士分遣所	0.040	0.040
名立分遣所	0.050	0.057

頭の踊り披露などが続きました。会場に今回集まったのは私たちを含めて70人余りです。この中にはOさん姉妹のように3人そろって参加してくださった方や毎回必ず参加してくださるNさんのような方が何人もおられました。Nさんは、「お母さんが頑張って生きておられるのは息子さんのことが心配だからです」と言われた時にはぐっときました。親せき筋のSさんからは、「また、弟が世話になるかも」と声をかけていただきました。うれしい出会いがいっぱいありました。交流会では30数年前のなつかしい映像(写真)も紹介されました。